

# 倶知安町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

資料2

## 事業実施の目的・必要性

倶知安町は、北海道・後志地方の中央に位置し、秀峰「羊蹄山」の麓にある人口16,886人（令和元年12月末）の町である。昭和47年12月20日には「スキーの町宣言」をし、冬には上質のパウダースノーを求め、国内外から多くの観光客が訪れている。特に、外国人観光客は約35万人の宿泊延数と、北海道を代表する国際リゾート地である。

倶知安町市街地では、幹線道路をルートとする地域間幹線系統の運行があるものの、市街地住民にとって、生活交通としての利用が限定される路線であったことから、市街地における公共交通不便地域地域の解消とJR倶知安駅でのJR函館本線、他の地域間幹線系統との接続に対応する公共交通として、平成24年4月から「まちなか循環バス「じゃがりん号」」を通年運行している。

「じゃがりん号」は、通年運行以来、市街地の高齢者や乳幼児を連れた主婦層の「生活の足」として、必要不可欠な移動手段になっていることから、地域公共交通確保維持事業により、今後も確保・維持していきたい。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

新規利用者からリピーターへの拡大を図るべく、下記系統ごとに1便あたりの平均乗車数を設定するとともに、全体乗車数を32,000人、持続可能な交通体系を維持するために、運賃収入の増加を2,540,000円と設定する。

- ①東西ルート:3.0人、②東西ルート拡大:7.5人、③東西ルート快速:4.0人、④東西ルート拡大・旭ヶ丘:7.3人、⑤東西ルート快速・旭ヶ丘:7.5人、⑥南北ルート:4.0人、⑦南北ルート拡大:6.0人、⑧南北ルート快速:3.0人、⑨南北ルート・旭ヶ丘:3.6人、⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘:6.8人

## 令和2年度事業概要

- 市街地を大きく2つのルートに設定し、それぞれにおいて、旭ヶ丘公園経由便や全停留所、一部停留所に停車する便を設定
  - ①東西ルート 平日2便・土日祝日1便
  - ②東西ルート拡大 平日2便・土日祝日2便
  - ③東西ルート快速 平日3便・土日祝日3便
  - ④東西ルート拡大・旭ヶ丘 平日2便・土日祝日2便
  - ⑤東西ルート快速・旭ヶ丘 平日1便・土日祝日1便
  - ⑥南北ルート 平日2便・土日祝日1便
  - ⑦南北ルート拡大 平日2便・土日祝日2便
  - ⑧南北ルート快速 平日3便・土日祝日3便
  - ⑨南北ルート旭ヶ丘 平日1便・土日祝日1便
  - ⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘 平日2便・土日祝日2便
- 乗車料金 大人100円 中学生以下無料（回数券12枚：1,000円、定期券1カ月：2,000円）

## 地域公共交通の現況

- ・ JR函館本線 倶知安駅、普通列車発着26本
- ・ ニセコバス 幹線2路線（3系統）  
町内1路線（2系統）
- ・ 道南バス 幹線2路線（3系統）  
町内3路線（5系統）
- ・ スクールバス 6系統（うち4系統は無料  
住民利用を実施）
- ・ 自家用有償旅客運送 2路線（10系統）
- ・ ハイヤー 2社（稼働台数11台）

## 協議会開催状況

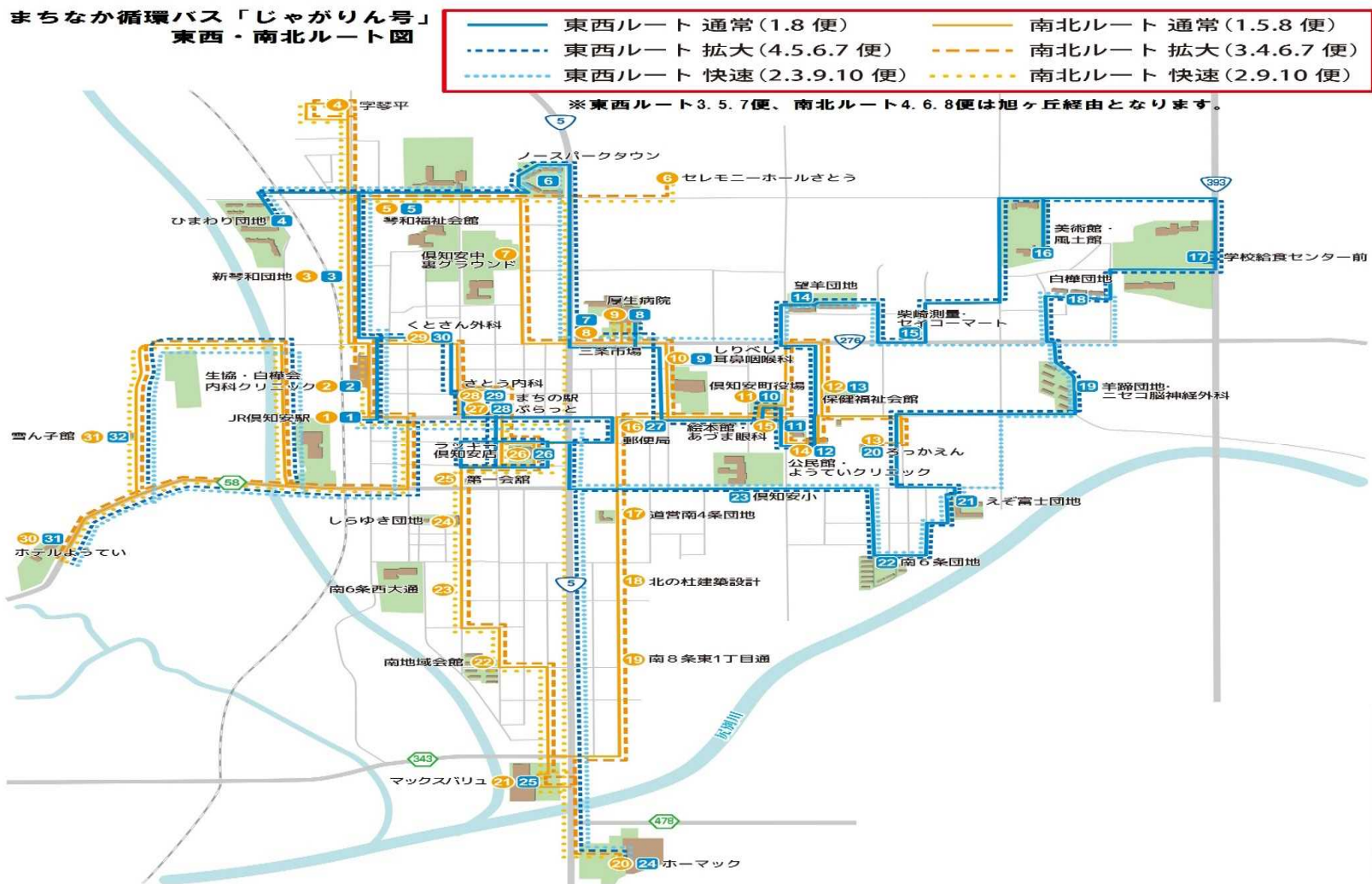
- 令和2年1月16日 第32回協議会を開催
  - ・ 令和元年度(10～9月)の事業評価
- 令和2年6月24日 第33回協議会を书面開催
  - ・ 令和元年度(4～3月)の事業報告・利用状況
  - ・ 令和2年度(4～3月)の事業方針・予算
- 令和2年10月29日 第34回協議会を開催
  - ・ 令和2年度(10～9月)の事業評価

# 令和2年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

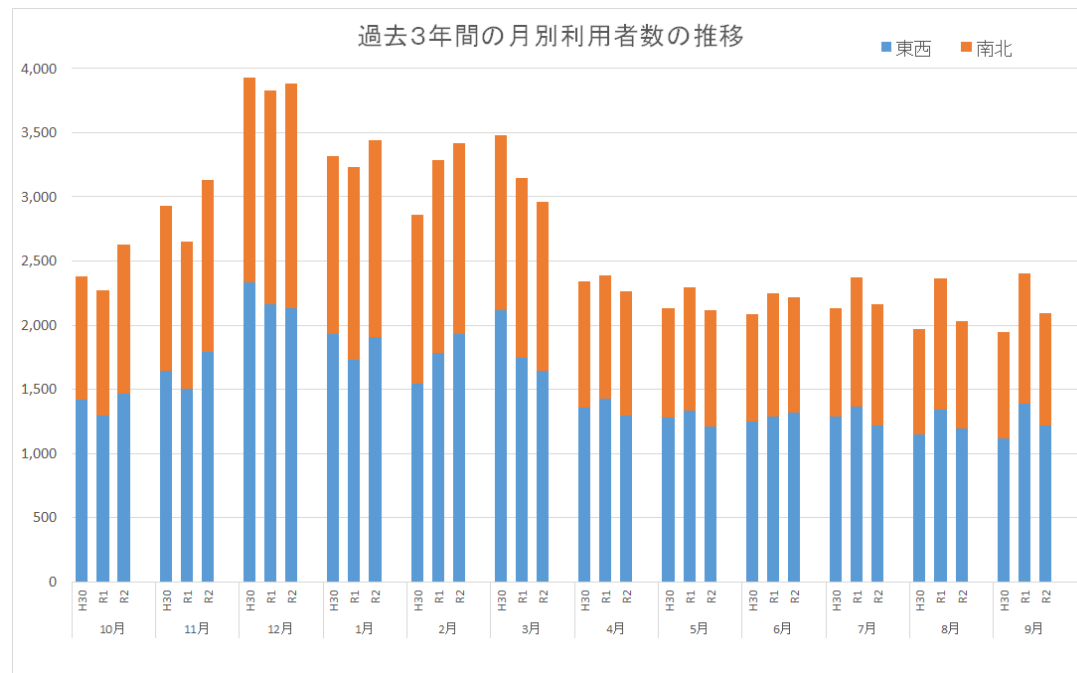
- 住民にとって、これまで以上に身近な公共交通機関とする
- 安全安心な公共交通を確立すべく、運転手との意見交換会を実施

## 2) 運行系統



### 3) 利用実績 ※フィーダー対象外系統含む

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	※単位:人
H30年度東西	1417	1643	2333	1928	1539	2115	
H30年度南北	961	1282	1593	1382	1318	1362	
R1年度東西	1292	1500	2159	1727	1782	1741	
R1年度南北	975	1150	1666	1505	1499	1404	
R2年度東西	1459	1786	2131	1902	1925	1639	
R2年度南北	1165	1340	1747	1535	1489	1319	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H30年度東西	1354	1279	1248	1286	1146	1114	18402
H30年度南北	985	850	833	841	821	825	13053
R1年度東西	1422	1327	1283	1358	1342	1387	18320
R1年度南北	963	963	958	1010	1020	1013	14126
R2年度東西	1289	1207	1312	1215	1192	1217	18274
R2年度南北	968	907	899	945	834	875	14023



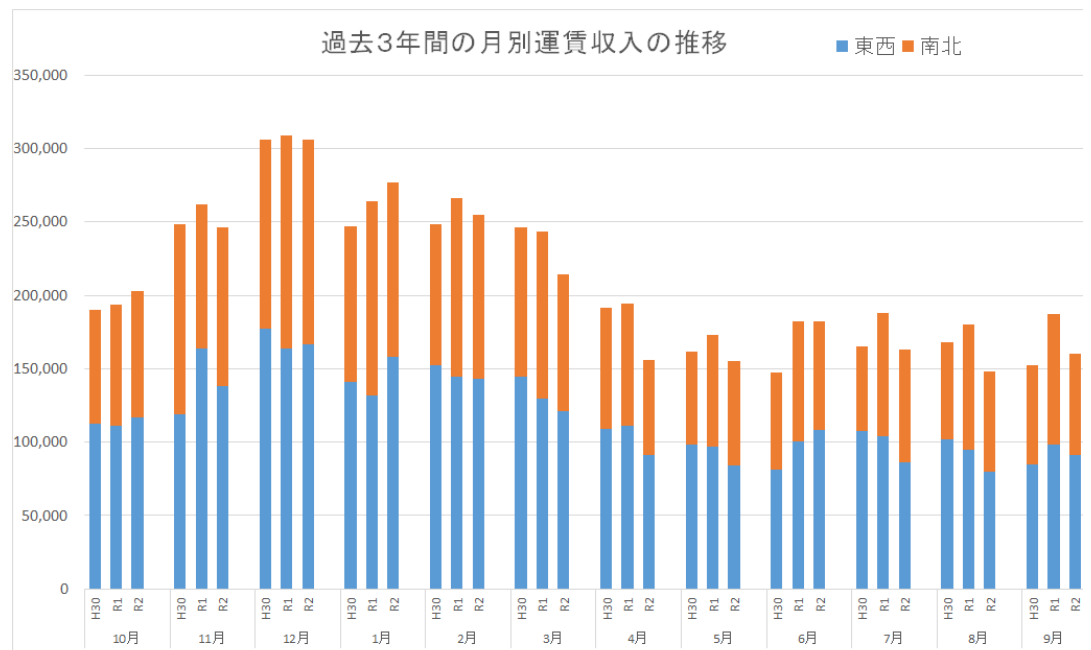
### 4) 収入実績 ※フィーダー対象外系統含む

#### ■ 運賃収入 (単位: 円)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	※単位:人
H30年度東西	112,000	118,900	176,610	140,411	152,310	144,510	
H30年度南北	77,910	87,501	129,110	106,210	95,800	101,610	
R1年度東西	110,700	120,670	163,610	131,501	144,510	129,050	
R1年度南北	82,910	97,910	144,920	132,050	121,601	114,201	
R2年度東西	116,200	137,900	166,411	157,710	142,700	120,710	
R2年度南北	86,650	108,301	139,220	118,750	111,510	93,200	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H30年度東西	108,700	97,910	81,000	107,100	101,300	84,400	1,425,151
H30年度南北	82,801	63,300	66,110	58,020	66,400	67,700	1,002,472
R1年度東西	110,710	96,501	99,900	103,900	94,700	98,300	1,404,052
R1年度南北	82,990	76,000	82,210	84,000	85,110	88,610	1,192,512
R2年度東西	90,800	84,000	107,600	86,110	79,500	91,200	1,380,841
R2年度南北	64,600	71,000	74,500	76,500	68,450	68,810	1,081,491

#### ■ 協賛広告収入 (単位: 円)

	協賛広告
H30年度	290,000
R1年度	446,000
R2年度	326,000



## 5) 事業実施の適切性

計画している運行日数、運行回数どおりに実施した。

## 6) 目標・効果達成状況

夏期には徒歩や自転車の利用で、バス利用者が少なくなるが、冬期に利用者が増加する傾向にあった。全体乗車数は、目標値32,000人に対し、32,297人と目標を上回った一方、運賃収入については定期券、回数券の売上増加を要因として、目標値2,540,000円に対し、2,462,332円と目標値を下回る結果となった。なお、前年度対比では、全体乗車数、運賃収入ともに冬期に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により夏期に大きく減少し、全体ではいずれも減少となった。(全体乗車数0.5%減、運賃収入5.2%減)

系統名	平均乗車数 目標/実績	系統名	平均乗車数 目標/実績
東西ルート	3.0人/2.9人	南北ルート	4.0人/4.1人
東西ルート拡大	7.5人/7.1人	南北ルート拡大	6.0人/5.7人
東西ルート快速	4.0人/3.0人	南北ルート快速	3.0人/1.2人
東西ルート 拡大・旭ヶ丘経由	7.3人/7.3人	南北ルート・旭ヶ丘 経由	3.6人/4.0人
東西ルート快速・ 旭ヶ丘経由	7.5人/6.9人	南北ルート 拡大・旭ヶ丘	6.8人/6.2人
全体乗車数(目標/実績)		運賃収入の増加(目標/実績)	
32,000人/32,297人(0.9%増)		2,540,000円/2,462,332円(3.1%減)	

## 7) 事業の今後の改善点

### 【利用促進・利便性】

○ルート・ダイヤ改正から3年が経過し、これまでの運行実績や実情に応じ、「集まる場所」へのルート・ダイヤ設定など、様々な方向から運行方法について検討する。

○じゃがりん号の使い方(利用方法)を広く周知し、利用したことのない町民に対し、利便性の高い公共交通ということを認識させる。

### 【財源確保】

○車体への協賛広告など、大手企業からの広告収入の検討

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、年間の全体利用者数は前年度よりも増加し、目標を達成することができた。一方で、運賃収入が前年度よりも減少しているため、持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。
- ・今後も継続的に維持していくためにも、地域公共交通計画を策定することを強く期待する。